

ゆたか俱楽部 よもやま話

vol. 12

クルーズご意見番“初代クルーズマスター 松浦睦夫”が語る

2002年（平成14年）に、日本の旅行会社として初となる、ロシア船チャークス社のリバーカルーズを実施しました。20隻を所有するロシアのリバーカルーズ船会社オーソドックス社のオーナーが来日した際に話を伺い、「これは面白そうだ！」と私もロシアまで下見に行つきました。1回目はゴールデンウイークで、ロシア・アゾフ海に面したロストフ・ナ・ドフから、ドン川を上り首都モスクワまで航く14日間です。素晴らしい気候に恵まれ、ロストフではリングの白い花が歓迎してくれました。2回目はモスクワを出発、ロシアの母なる大河ボルガ河を下り、かつて「レニングラード」と呼ばれたサンクトペテルブルクまで航く10日間です。3回目は阪急交通社と組み、約200人のお客様が参加されました。

当時はソビエト連邦の崩壊（1991年）からようやく10年過ぎた頃です。日本とロシアを結ぶ飛行機はアエロフロートロシア航空しかもく、現地ではインフラ整備の遅れが目立ちました。観光バスは寄せ集め、サービスもバラバラです。しかし、船でしか行けないロシアの原風景はとても美しく、特にキジ島の木造船会社は、釘を一本も使わずに建てられたものを見ると、その技術の高さに感動的でした。キジ島はオネガ湖にあり、陸路で訪ねるには不便な場所ですが、直接着岸ができるリバーカルーズ船だからこそゆっくり観光いただけるのでしょうか。

残念だったのは船内の食事でした。日本人の口に合わず、私は日本からカツ丼やカツ丼焼きそばを山ほど持ち込んで皆さんに配りましたが、根本的解決にはなりません。ついに決心し、一度だけチャーターする船会社を、リバーカルーズ会社の最大手であるバイキング社に変えてみました。すると「これは負けではない！」とオーソドックス社も食事を見直してくれ、食事に関する苦情は出なくなりました。これが、競争の原理といふものだと思います。現在当社のボルガ河クルーズの企画で乗船いただいているセルゲイ・ラフマニノフ号は2014年に改装されています。

ボルガ河リバーカルーズには、ロシア情勢専門ジャーナリストの小林和男氏に、ゲスト講師として2回乗せていただいたことがあります。N H K モスクワ支局長を2度務め、ソ連崩壊から新生ロシアへの変貌を、間近でとらえた方です。にっぽん丸でサンクトペテルブルクに行つた際にゲスト講師で乗船されていた小林氏と知り合い、私と同じ長野県出身といふこともあって意気投合。ジャーナリストとして独立されたばかりで「時間が合えばいいですよ」と言つてくれました。小林氏は、プーチン大統領に日本人として唯一単独会見した人です。プーチン大統領は13歳からの柔道家で、会見場所はロシア大統領別荘にある講道館。畳が敷いてあり結構広く、小林氏が入室すると「礼をしなかつた」と延々と怒られたそうです。小林氏をぱしふいくびいなしに紹介したこともあります。小林氏は今でも付き合いがあり、メールで近況を送ってくれます。

「リバー・ダッヂエスで航く東西ヨーロッパ大横断リバーカルーズ」は2004年から始まり、2020年6月で18回目を迎えます。定員130名のリバー・ダッヂエスは、最高水準のサービスと、地元の新鮮な食材を使ったお料理、そしてスタッフの気持ちのこもったおもてなしで人気が高く、世界中の旅行会社から注文が殺到しています。しかし、東西ヨーロッパを大横断する船は1

隻しかなく、年に1往復ぐらいしか運航していません。日本では「ゆたか俱楽部」だけの取り扱いを貫いているのは、船会社のユニワールド社の方針で、アメリカやドイツ、ニュージーランド、南アフリカなど世界中の小さい会社から15名から20名ぐらいのお客様を毎年コンスタントに集客できる会社が選ばれているようです。

片道約1か月、往復2か月かかるリバーカルーズで、時速15～20キロで一晩8時間でも1日160キロぐらいしか走りません。当然ですが揺れません。朝、港に着けばその街の観光をして、船に戻つて食事して寝ての繰り返し。1か月も船に乗つているのに、体がとてもラクだ、こんな船旅は初めてだと参加された方は皆さんおっしゃいます。旅行代金は1人200万円ほどかかりますが、今まで全く苦情がなく、安心して勧められる……これが「ベストクルーズ」だと思っています。ライン河・マイン河・ドナウ河を全行程26日間クルーズと陸上移動距離をすべて含め3500キロ。

8ヶ国周遊の2020年版のコースは6月12日出発で、参加者受付中です。2002年 ゆたか俱楽部が日本で初めてロシア船チャータークルーズを実施 2004年 ゆたか俱楽部が「東西ヨーロッパ大横断リバーカルーズ」を発売スタート

日本のクルーズ略史

2002年 ゆたか俱楽部が日本で初めてロシア船チャータークルーズを実施

2004年 ゆたか俱楽部が「東西ヨーロッパ大横断リバーカルーズ」を発売スタート